

1964年公開の「博士の異常な愛情」は、スタンリー・キューブリック監督と組んだ最初の作品だった。ふたりが一体となって取り組んだ作戦司令部は、当時を代表する撮影セットとなり、作品自体も映画史に残る風刺的なブラック・コメディの大傑作となった。

製作にあたり、政府機密機関の内部をうかがい知る手だてはなく、キューブリックとアダム（写真右）のたくましい想像力が頼りだった。1960年代には技術的な制限があり、合板シートの背後に数千の電球を配置することで巨大スクリーンを演出していた。



## 幻想のデザイナー

20世紀の映画界に最も大きな影響を与えた偉大なる美術監督、ケン・アダム。「007 ゴールドフィンガー」、「博士の異常な愛情」などで彼が手がけた撮影セットは、出演したスター俳優に匹敵するインパクトがある。文 イアン・クリスティ

彼の哲学は、あっけないほどシンプルである。「現実とは退屈なものであり、観客は意外性のあるものを求めているのです」



PHOTOGRAPHS: "KEN ADAM DESIGNS THE MOVIES: JAMES BOND TO BEYOND," CHRISTOPHER FRAYLING, THAMES AND HUDSON. DESIGN SKETCHES: © KEN ADAM. PORTRAIT: HENRY BOURNE. FILM STILL: COURTESY OF MGM STUDIOS/MOONBAKER © 1979 DANJAQ, LLC & UNITED ARTISTS CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED. GOLDFINGER © 1964 UNITED ARTISTS CORPORATION & DANJAQ, LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

「007ドクター・ノオ」の時は、スケッチを描く余裕は皆無でした。プロデューサーと監督がジャマイカでのロケから戻ってきたのは、スタジオ撮影のわずか4日前だったので、肝がつぶれる思いでしたね」

映画界を代表する美術監督、ケン・アダムが不安におびえる姿など、およそ想像もつかない。初期のジェームズ・ボンド・シリーズや「英国万歳！」など40作品以上のクレジットに名前を残す彼は、91歳にして今なお健在だ。ロンドンのナイツブリッジ地区にある彼の瀟洒な邸宅には、ふたつのアカデミー賞をはじめとする数々の栄光の印が溢れている。山と積まれた書籍のなかには3冊の自伝もある。だが、1962年当時の彼は、テレンス・ヤング監督や、辣腕プロデューサーのカビー・プロコッリとハリ・サルツマンの反応に戦々恐々としていたのだ。

この作品では、予算を6000ポンド（約1万ドル）ほどオーバーしたのが玉に瑕だったが、犯罪組織の見事なセットに誰もが拍手喝采した。ジェームズ・ボンド・シリーズはイギリス映画史上に残る長寿シリーズとなり、今年、23作目にあたる「スカイフォール」が公開される。アダムは20年にわたって7本のボンド映画を手がけ、主演俳優や、異国の強敵、危険な香りのするボンドガールたちに勝るとも劣らない名声を勝ち取るようになった。

毎回さらに大きな賭けに挑むという職責を彼は大いに楽しんできた。「楽しかったですよ。大変だと思っただけではありません」。シリーズ2作目の仕事となる「ゴールドフィンガー」（1964年）における課題は、誰も目にしたことのない米国財務省が管轄するフォートノックス金塊保管所の内部をデザ

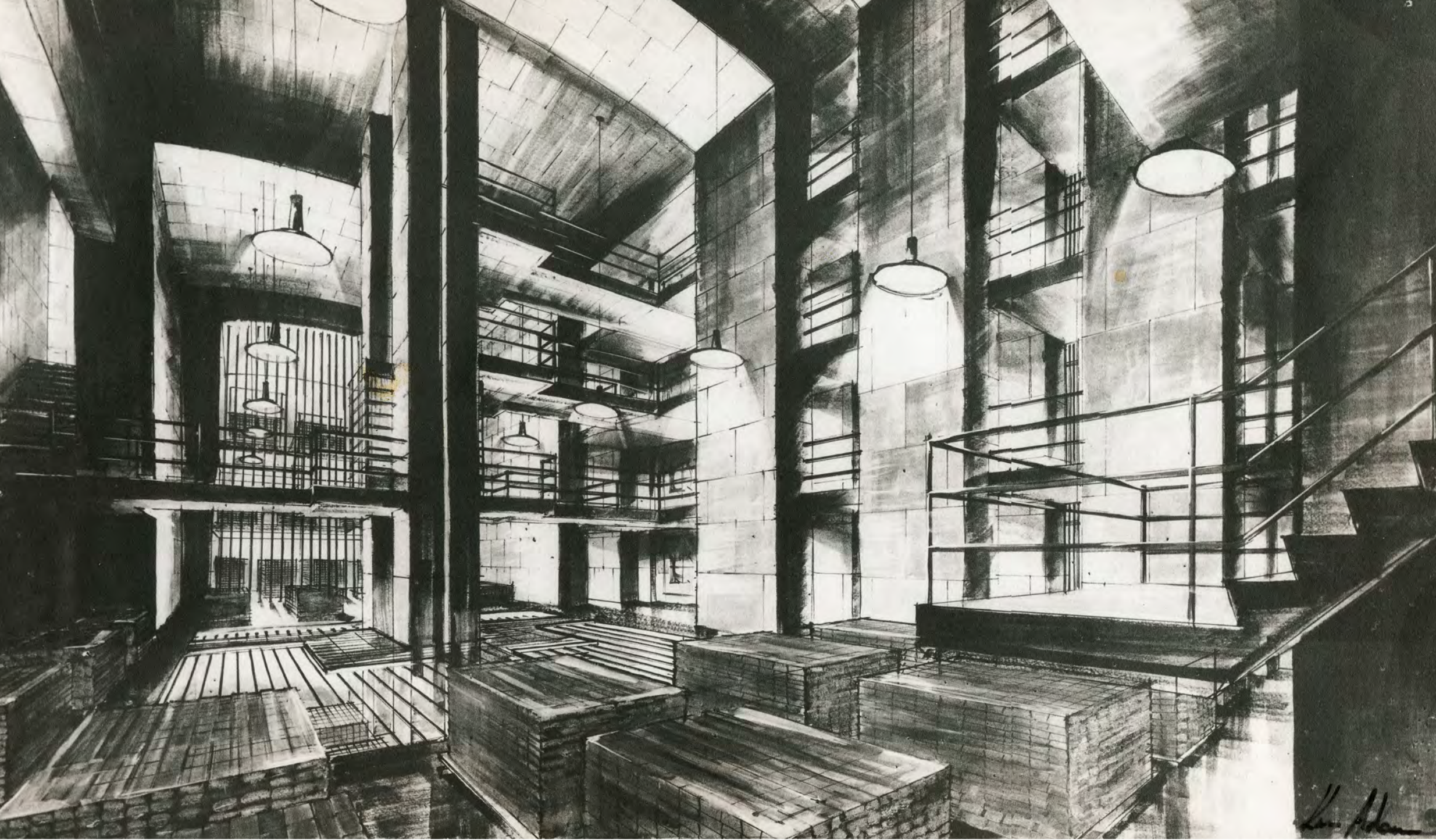
インすることだった。彼はケンタッキー州のこの施設を上空から眺めることに成功するが、「実に退屈な1920年代のアルヌーヴォー建築」だったという。かつて戦闘機のパイロットをしていたアダムが言う通り、フォートノックスは機関銃や拡声器を備え、鉄壁の防衛体制が整っている。だが、大統領でさえも見たことがないという建物の内部に関しては、完全に想像に頼るほかなかった。金塊は非常に重いため、高く積み重ねられている可能性は少ないが、彼はスタジオの天井に到達するような「金塊の聖堂」を築き上げた。それをさらにリアルに見せるために、特殊なラッカーを仕上げるに使ったことは、楽しい思い出という。

この例は、「観客をよい意味でだます」という美術監督の仕事を実に表している。観客に判断材料がほとんどないような状況においても、本物らしく見せることが使命なのだ。ボンド映画は特にその傾向が強い。プレミングの小説はヒーローが活躍する舞台を詳しく語っていないからだ。美術監督は自由であると同時に、もつともらしいファンタジーを創造する役目を担っている。シリーズの世界的な成功で、制作費は大幅に膨れ上がり、セットのスケールもそれにかかる費用もどんどん大きくなっていった。

「いつも相談できる専門家がいまいた」と語るアダム。「コリン・チャップマン（ロータス社の創業者）とは知り合いで、さらにアメリカでミニ潜水艦をつくった人たちとも話ができたので、「私を愛したスパイ」（1977年）では水中で実際に動くロータス・エスプリアが完成したのです。彼が最後に手がけたボンド映画「ムーレイカー」（1979年）は、悪の組織が宇宙ステーションから世界征服を企てるストーリーだ。



007を生み出したイアン・フレミングは、子ども向けに「チキ・チキ・バン・バン」も書いていた。この小説が1968年に映画化されるにあたり、アダムはスタジオセットに加え、空を飛ぶ車（ロールロイスとブガッティが融合した車）と飛行船のデザインも任された。右のスケッチは、ヴァルガリアの子どもたちがチャイルド・キャッチャーから逃れるために隠れていた地下牢だ。アダムはイタリアの版画家ピラネージから影響を受け、彼が18世紀に描いた迷宮牢獄の銅板画からインスピレーションを得た。[前ページ] ケン・アダム、今年前半にロンドンの自宅にて。



「NASAで宇宙計画を覚えてもらいましたし、アシスタントのなかにはNASAの元職員もいました。科学関連の機関はいつも協力的です」「ムーンレイカー」では、ブラジルのジャングルにあるとされる、マヤ寺院を装った司令センターから、排気チャンバーが大会議室になっているスペースシャトルまで、大型セットが用意された。税制上の理由からフランスにある3つの大型スタジオにプロダクションの本拠が置かれ、当初は労働組合との対立もあったが、「撮影が終わる頃には、宇宙ステーションという特別なものをつくったことで、組合も満足の様子でした」。

美術監督のなかにはリアリズムを強調する人もいるが、ウィリアム・キヤメロン・メンジーズやセドリック・ギボンズといったハリウッドの大御所に、アダムは触発された。「恐れては

いけないことを彼らから学びました。できるだけリアリティの誇張、またその様式化に努めたのです。戦前は建築を学び、その後は製図工になる。「最終的に製図板から自分を解放しなければならぬ」と悟り、もっと自由に仕事をするようになりました。そこから大胆なスケッチが生まれ、彼の評判は高まる。彼が大いに参考にしていったのは、「新しい素材や空間感覚を駆使し、非常に高度でエキサイティング」だった1920年代ドイツのパウハウスの建築家集団や、18世紀の版画家ジョヴァンニ・パティスタ・ピラネージといった古典芸術家であったという。とりわけ、ピラネージの銅版画シリーズ「牢獄」からインスピレーションを得て、映画「チキ・チキ・パン・パン」(1968年)では、迷路のような階段や、アーチがある地下牢をつくり上げた。ここでは、ヴァルガリアの子どもたちがチャイルド・キヤッチャーから逃れるために隠れていた場所だ。

地上の部分はドイツ南部バイエルン州の19世紀の城、ノイシュヴァンシュタイン城を使い、空飛ぶ車などそれ以外のすべては、彼の自慢のスタジオで制作された。「20世紀初頭の車で、しかもセクシーなものをデザインするというのは、かなり難しい仕事のひとつでした。私たちはバインウッドスタジオの造形部門でプロトタイプをつくりました。数年後に技術者のひとりに「あなたは無茶な人だった」と言われましたが、最終的な出来栄はよかったですよ」

キューブリック監督の「博士の異常な愛情」(1964年)は、核戦争による絶滅がエンディングとなる終末論的なブラック・コメディだったが、この映画に登場する作戦司令室は、まちがいにアダム最大のお気に入りだ。注文の多い同監督は、アダムが3週間かけてつくったデザイナーをやり直すよう命じたという。「描いている後で、言うんですよ。『そうだ、三角形は幾何学の最強のフォルムだ。コンクリート、緑のベーズ張りのテーブル、照明の上には支えなしのリング、これでいけるか』と。夜まで一緒に練り直した日が何日もありましたよ」

紆余曲折の末、セットは実にリアルに仕上がって、就任直後のロナルド・レーガン大統領からこの作戦司令室を見せてほしいという要請を受けるほどだった。だが、これはアダムの想像の産物であり、銀幕の上のみで存在するものだ。彼の哲学はあつけないほどにシンプルである。「現実とは退屈なものであり、観客は意外性のあるものを求めているのです」。過去半世紀にわたり、私たちを楽しませてくれていたケン・アダムに謝辞を捧げたい。



ドラマに満ちていた。1979年の「ムーンレイカー」で見たスペースシャトル用の排気チャンバー(下の2点)は会議室と兼用になっていた。この撮影セットは実物大だったが、スペースシャトルの発射台はモデルを使った。発射台のある巨大な宇宙ステーションは、アダムにとっては最も野心的で大がかりなプロジェクトだった。



ボンド映画においても、「博士の異常な愛情」の作戦指令室と同様に、ほとんど参考材料がない場所をリアルなビジュアルの世界に表現することが課題だった。1964年の「ゴールドフィンガー」でつくられたフォートノックス内部(上の2点)は、アダムのたくましい想像力の賜物であり、撮影セットは、真実味に溢れ、